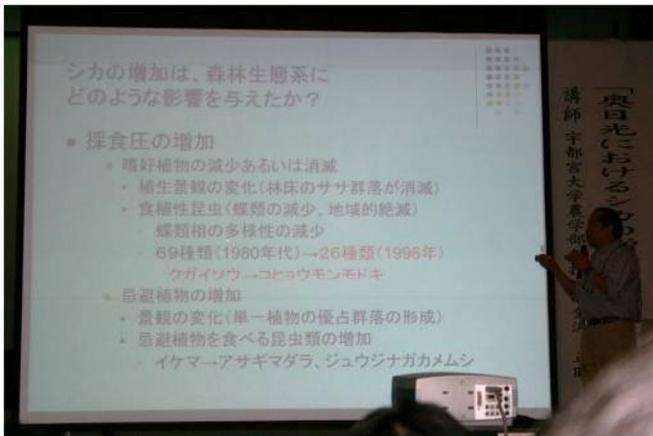


## SS 科学基礎(出張講義)

平成24年5月9日(水)に、宇都宮大学農学部教授小金澤正昭先生をお招きして、「奥日光におけるシカの増加と森林生態への影響」を演題にした出張講義が開催されました。対象は1年生全クラスで、今年度SSHでの初めての出張講義となりました。

シカは尾瀬と奥日光の間を行き来しており、禁猟区やハンターの減少、暖冬、オオカミの絶滅(食物連鎖の頂点)などにより年々数を増やしているそうです。その影響は、高山植物の食害やその食害からくる他の生物への被害があり、生物の多様性が失われ、森林生態系にも大きな影響を与えているそうです。

シカの増加による生態系への影響は深刻化しており、先日のテレビニュースでは、尾瀬で多くの水芭蕉がシカの食害にあっていると報道されていました。



シカの食害が森林生態系に与えた影響として  
○嗜好植物の減少あるいは消滅

- ・林床のササ群落消滅による植生景観の変化
- ・食植生昆虫の減少、地域的絶滅

蝶類(1980年代69種類→1990年代26種類)  
クガイソウを食べるコヒョウモンモドキが絶滅

○忌避植物の増加

- ・単一植物が優先群落を形成し、景観の変化
- ・忌避植物を食べる昆虫類の増加

有毒のイケマを食べるアサギマダラ、ジウジナガカメムシの増加



生徒たちは、先生の言葉に集中し、メモを取るなどして真剣に講義を受けていました。講義後の生徒の質問では、次々と手が上がり、どの質問にも小金澤先生は丁寧に答えてくれました。シカの増加に対して、個体数調整を行い、生息密度を下げるため、オオカミを放つのも1つの方法とのお話に対して、質問も多数ありました。